



# LINKLE NEWS

## みんなが笑顔で すこやかにすごせる 地域をつくる



### つながりの第一歩は、 「同意」から

りんくるは、令和7年4月1日に公式運用を迎えました。今では島内すべての病院や介護事業所の皆さまにご登録いただき、日々の連携の場として活用していただいていることを、事務局一同とても嬉しく感じています。「使ってみよう」と一歩を踏み出してくださいました専門職の皆さまに、心から感謝しています。

運用が始まってから、事務局には毎日のようにさまざまな声が届きます。「ここが少し分かりにくいかも」「こんなふうに使えたらもっと便利」そんな現場からの気づきは、りんくるを“みんなで育てていく”ための大切な宝物です。いただいた声をもとに、少しずつですが改善を重ねています。操作や活用のご相談には「りんくる塾」としてお伺いしていますので、どうぞ気軽に声をかけてください。

りんくるは、医療や介護の専門職同士が情報を共有し、より良い連携をつくっていくための仕組みです。

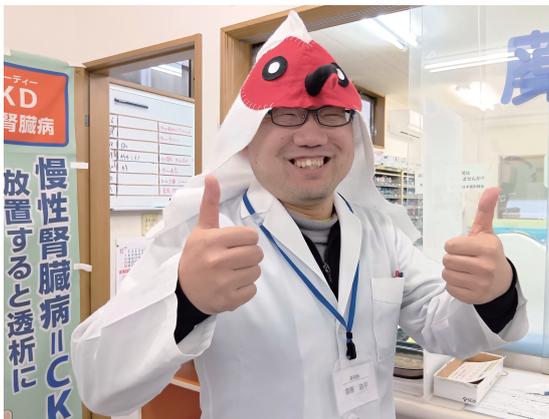
そのはじまりとなるのが、患者さん・利用者さんの登録と「同意」です。同意取得は、特定の職種だけが行うものではありません。りんくるを使うすべての専門職が、その場でやさしく確認していただく流れになっています。利用者さんやご家族に、りんくるの仕組みを丁寧にお伝えし、安心して同意していただくこと。それが、私たちがチームとして連携を進めていくための最初の一步になります。

りんくるは、誰か一人が支えるものではありません。医療・介護・福祉の専門職みんなで、少しずつ、ていねいに育てていく仕組みです。これからも、皆さまと一緒に、りんくるをより良い形に育てていけたらと思っています。そして——りんくるは、これからも進化していきます。もっと便利に、もっと使いやすく、もっと“つながりやすく”。どうぞ楽しみにしててください。



運営担当  
宇治 沙耶花

# LINKLE User Interviews



みなと調剤薬局

(薬剤師) 齋藤 浩平 さん

「多職種連携ツール「りんくる」導入から見た、現場薬剤師の現在地と期待」

○導入のきっかけは「ケアマネジャーからの提案」とお聞きしましたが

正直に言うと、最初は介護系のツールという印象が強く、自分たち薬剤師が使う場面は「ひまわりネット」に比べれば少ないかなと思っていました。薬剤師は「薬」を中心に動くので、でも、実際に使ってみると「便利だな」と感じていきます。きっかけはケアマネジャーさんでし

た。「この利用者さん、「りんくる」に入っているから、居宅の報告書を郵送じゃなくりんくるで送ってもらっていいですよ」と言われたんです。薬剤師は、在宅の薬剤管理に行くと、必ず医師やケアマネさんに報告書を出さなきゃいけない。今まではそれを一通ずつ封筒に入れて、切手を貼って……と。それがりんくる上で完結できる。これは人件費や郵送料の面、精神的な手間としても、とても楽になりました。

○「ひまわりネット」を使いこなしている薬剤師さんから見ると「りんくる」の立ち位置はどう見えますか？

ストレートに言うと、やっぱり「薬の情報」があるかないかの差は大きいです。僕ら薬剤師は、薬の情報が載っている「ひまわりネット」をまず見ます。そこは使い分けですよ。ただ、「りんくる」は「やり取り」のツール。例えば、病院からFAXで届く「薬剤管理サマリー（入院中の薬の変化のまとめ）」をりんくるで共有できたらいいなと思います。ひまわりネットには載らない「現場の細かい引き継ぎ」を補完する形になればもっと化けるんじゃないでしょうか。細かいことですが、ファイルの保存先について、今は「その他」フォ

ルダにどんどん放り込んでいきますが、「薬剤師用フォルダ」を一つ作ってほしいです。他の職種の人も、そこを見れば「薬剤師からの報告はここのね」とすぐわかる。ついでに、薬剤師向けの「りんくる塾」みたいな、ちょっとした勉強会を開けたらいいなと考えています。

○りんくるで繋がることで、患者さん本人やご家族にとってはどんなメリットがあると思われませんか？

そうですね。一番は、僕ら薬剤師が家で見つけた「小さな変化」が、すぐにチーム全員に伝わることだと思います。訪問して報告書を書くときは、単に薬の数を確認するだけじゃないんです。「今日は食事が摂れていないな」とか「睡眠の様子がいつもと違うな」といった生活の変化も見えています。これを郵送ではなく、りんくるで即座に共有できれば、ケアマネさんや看護師さんが「あ、じゃあ明日様子を見に行こう」と動ける。この「見守りのスピード感」は、患者さんの安心に直結するはずですよ。

あと、特に喜ばれるのは「退院した直後」じゃないでしょうか。病院での薬の変化って、実はご本人も把握しきれないことが多いんで

す。病院からりんくるを通じて、入院中の細かい経緯が薬局に届いていれば、自宅に戻ったその日から「病院ではこうでしたから、今日からはこう飲みましょうね」と、食い違いのない正確なサポートができます。ご家族が病院と薬局の間で「板挟み」になって説明に困る、なんて負担も減らせますよね。

○最後に、島内薬剤師の方々へメッセージをお願いします。

難しく考えずに「ちょっと触ってみる」ことから始めてみませんか？ いじっているうちに「あ、これ便利かも」って瞬間が必ずやってきます。まずは自分自身を患者さん役にして登録してみてください。一人で頑張る必要ありません。もし分からないことがあれば、今後僕らが企画する（予定の）薬剤師「りんくる塾」にふらっと遊びに来てください（笑）。みんなと一緒に慣れていけばいいなと思っています。このツールが広まることで、薬剤師の仕事がもっとスムーズになって、それが結果として患者さんの安心につながっていく。そんな佐渡らしい、温かい連携の形をみんなで作っていったら嬉しいですね。



社協ケアプランセンターおもと

(ケアマネジャー) 林 和美 さん、

中川 文子 さん

「現場の声を形に」。ICTひびく地域連携の今とこれから」

〇りんくるを導入して約半年が経過しましたが、日々の業務での変化はいかがでしょうか？

導入前は新しい操作を覚えること

への不安もありましたが、実際に使ってみると操作はそれほど難しくなく、今では業務に馴染んでいます。特に、これまでは書類を自分のパソコンで作成した後に、わざわざ複合機のある場所まで移動してスキャン・送信していましたが、今は自分のデスクから離れずに完結できる点が大きなメリットです。

また、りんくる上で利用者さんの情報を共有するためには「同意」が必要になりますが、同意取得率は高く、担当しているケースの約9割に達しています。

〇具体的にどのような場面で活用されていますか？

一番活用しているのは入院情報の共有と、特養（特別養護老人ホーム）への入所申し込みです。特養の申し

込みがシステム上でできるようになったことは非常に助かっています。また、病院から退院サマリーがPDFなどで事前に届くことで、サード担当者が会議の前に内容を把握してコピーを準備できるなど、連携のスピードと質が格段に上がりました。さらに、病棟看護師さんから退院見込みの連絡があると、りんくる上に記録が残るので、後で見返したり、確認ができることも非常に優れています。

〇りんくる導入によって、介護現場の業務効率や多職種との連携の質はどのように変化しましたか？

大きいのは、リアルタイムの状況把握です。施設から「自宅に帰宅した」といった細かな連絡がりんくるを通じて入るようになり、状況把握が迅速化しています。電話を介さずとも、利用者の動静を素早く知ることができることは大きなメリットです。他には、島内での情報のやり取りは結局フックスで…というのが、今また主流なところで、過去には送信間違ひもありました。そこがりんくるに置き換わっていくと、個人情報的なところも安全になると思います。

〇運用の中で、課題や「もっとこう

してほしい」と感じる点はありませんか？

病院の看護師さんはお忙しい中で操作して下さっていると思います。が、こちらから連携した情報が届いているか不安で、結局電話をしようということもあります。確認しましたという意味で、りんくるの「いいね！」ボタンを必ず押してもらおうとか、全病棟での共通した運用ルールがあると、より安心かなと思います。他には、現在りんくるの上に医師の名前を直接入力できない部分があります。指示を仰ぐ場面も多いため、医師の名前入力ができるようになるとうれしいです。

〇最後に、島内の事業所の皆さんへメッセージをお願いします。

今は事業所ごとに連絡手段がバラバラなこともありますが、『地域共通のツール』として広まれば、これほどありがたいことはないと思っています。最初は操作に迷うこともありますが、例えば特養の申し込みを取り下げる際の削除操作など、慣れが必要な部分もありますが、みんなが「りんくる」を活用することで連携が取りやすくなり、結果として大きな時短につながります。より良い地域連携のために、一緒に活用していきましょう！

# LINKLE User Interviews



どんぐり訪問看護ステーション  
(看護師) 服部 倫代 さん

「足で運ぶ連携」から「デジタルで繋がる地域へ」

〇りんくるを使い始めた当初の印象はどうでしたか？

導入当初、デジタルツールへの抵抗感を懸念する声もありましたが、現場の反応は意外にもポジティブなものでした。振り返っても、操作に難しさは感じなかったです。それ以上に、これまで足で運んで持って

行った情報のやり取りが、手元の端末で完結することへの期待が大きかったと思います。

訪問看護の業務は、常に移動と隣り合わせです。これまでケアマネジャーや病院への書類提出のために移動していた時間を、本来の看護業務に充てられるメリットは計り知れません。

〇普段、どのような場面でりんくるを最もよく使っていますか？

現在、最も活用されているのは「看護サマリー」のやり取りや、入院を

控えた患者さんの状態共有です。特に皮膚トラブルなどの症状がある場合、スマートフォンのカメラで撮影した写真を「りんくる」で送信し、病院の看護師に事前に確認してもらう運用が始まっています。「入院後にごのようなケアが必要か」を写真付きで具体的に伝えることで、スムーズな受け入れに繋がっています。

また、病院との連携においても変化が見られます。これまでは電話や手紙での連絡が中心でしたが、「りんくる」による文字での報告

は、多忙な病院職員にとっても、内容を後で再確認できるメリットがあります。スタッフも「電話で口頭で伝えるよりも、文章の方が細かいニュアンスや家族の思いを正確に伝えられる」と、その利便性を実感しています。最近、特に両津病院との間では、訪問看護で行った処置内容を「りんくる」で共有し、それに基づいて病院側が会計処理を行うといった、実務に直結した運用が定着しています。

〇りんくるを導入したことで、現場では「デジタル化」のメリットは感じますか？

はい、多職種が関わる在宅ケアにおいて、情報の蓄積は大きな武器になります。例えば、長期的な利用履歴がデータとして残るため、担当者が交代しても過去の経過を誰でもすぐに参照できる点が大きな安心感に繋がっていると感じます。また、現場では病院医師に「手紙」を書いて送付していますが、実際のところ、紙ベースのやり取りでは「医師に渡ったのか、事務で止まっているのかわからない」「紛失してしまう」といったトラブルが課題となっています。今後はこれを行んくる上で完結できるようにし、情報の齟齬を防

ぎつつ、地域医療の質を向上させていきたいです。

〇運用上の課題とさらなる期待をお願いします。

さらなる普及のためには解決すべき課題もあります。例えば、「現場が忙しいと通知に気づかない」というスタッフの声があり、「LINEのように「通知音が鳴るアプリ化」など、即時性に気づける仕組みがあると嬉しいですね。また、現在、ケアマネジャーへの実績報告書などは、依然としてガソリン代をかけて持参したりFAXしたりしているのが現状です。今後は「月次実績」の送信も「りんくる」上で行えるようにしていきたいです。

〇最後に、りんくるが昨年4月から稼働しもうすぐ1年が経ちますが、今後期待することや他施設へのメッセージがあればお願いします。

最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、まずは戸惑うこともあっていいと思います。私たちがこれから色々な場面で活用していきますので、円滑な情報共有ができるよう、皆さんと一歩ずつ連携を深めていければ嬉しいです！



すこやか両津

(支援相談員) 市橋里依さん

「老健の現場から語る、使用感と」  
れからの期待」

○りんくる導入前は、新しいツール  
に対してどのようなイメージを持っ  
ていましたか？

最初は仕組み自体を十分に把握で  
きていなかったこともあり、「使い

づらいのではな  
いか」という漠  
然とした不安が  
ありました。し

かし、実際に使  
い始めてみると、  
自分なりに「使  
いやささ」を感

じる場面が増え  
ています。例え  
ば、特に便利だ

と感じているの  
が病院との連携  
で「患者さんの

状況やどの病棟  
に入院している  
のか」を把握で

きるようになって  
きた点です。これ

までは都度電話

で確認していましたが、りんくるを  
見れば状況がわかるため、連絡の手  
間が省けるようになりました。

○具体的に、どのような場面で「り  
んくる」を活用していますか？

主に入院支援や特養の入所申し  
込みで活用しています。例えば、特  
養への申し込み状況がりんくるの上で  
把握できるため、入所前の調査に行  
くタイミングを検討する際に非常に

役立っています。また、病院から当  
施設へ入所される際、サマリーなど  
の書類をデータで送っていただける  
のも大きなメリットです。わざわざ  
病院まで書類を取りに行く手間が省  
けるため、「業務の効率化」に確実  
につながっていると感じています。

○利用者・ご家族の反応とりんくる  
への同意取得状況はいかがですか？

新規入所の方には、パンフレット  
を用いて「りんくる」の説明をして  
いますが、約8割程度の方からス  
ムーズに同意をいただけています。

一方、ご家族からすると、仕組み  
が少し難しいと感じられる部分もあ  
るようですが、「施設側の連携がス  
ムーズになるなら」と快く協力して  
くださるケースが多いです。中には

個人情報に気がされる方もいらっ  
しゃいますが、持ち帰って検討して  
いただくなど、丁寧な対応を心がけ  
ています。

○活用を進める中で、難しさを感じ  
ている部分はありますか？

自治体特有のシステム (Revo)  
との兼ね合いで、ファイルのアップ  
ロードがスムーズにいかないことが  
あります。自分のデスクのパソコン  
から直接操作できればベストなので

ですが、現状は特定のパソコンに移動  
して作業しなければならず、そこが  
効率化の妨げになっている部分は正  
直あります。

また、施設内でも看護師やケアマ  
ネジャーへの浸透はこれからという  
段階です。現場のスタッフがより正  
確なADL (日常生活動作) 情報な  
どを入力できるようにすれば、さら  
に活用の幅が広がるのではないかと  
考えています。

○最後に、今後、どのように「りん  
くる」が発展してほしいですか？

現在は限定的な活用となっていま  
すが、今後は特養やグループホーム、  
小規模多機能型居宅介護事業所な  
ど、他施設との連携にも「りんくる」  
を活用していきたいと考えていま  
す。また、病院側から「情報を『り  
んくる』で送るので確認してくださ  
い」と声をかけていただくこともあ  
り、少しずつですが「顔の見える関  
係」のきっかけになりつつあり、連  
携が進んでいると感じます。施設内・  
施設外を問わず、このツールがさら  
に浸透し、「パソコン一つで、より  
効率的に良い仕事ができる環境」が  
整っていくことを期待しています！

# LINKLE User Interviews

佐渡市立両津病院  
地域医療部 副地域医療部長

(看護師) 有元 雅美 さん

○りんくるを使い始めた当初の印象はどうでしたか？

最初はデータ入力などが大変かもしれないと思いましたが、蓄積した情報を活用できるため「最初が肝心」という印象でした。電話と違いメモが不要で聞き間違いもなく、時間を問わず送受信ができる点は病棟スタッフにとって大きな利点です。スマホの Gmail 設定により、連絡が

届いたことを各職員へ通知しているため、内容を開かなくても把握できる点は非常に便利です。

○日頃、どのような場面でりんくるを最もよく使っていますか？

当院とどんぐり訪問看護ステーションとの連携事例ですが、訪問時にどのような点滴処置を行い、どの物品をどれだけ使用したかといった情報をどれだけ受け取り、それを電子カルテに記載して処理を行うという流れで運用しています。指示書のやり取りや在庫状況の確認に非常に



に便利です。また、患者さんへの「ゼリー提供の可否」など、医師への細かな問い合わせや、訪問先での患者状態の報告、看取り期の情報共有、家族の不安感の伝達などにも活用し、従来のように電話やFAXに頼らないスムーズな連携が実現しています。

○りんくるを導入したことで両津病院全体の業務の流れに変化はありましたか？

院内のネットワーク制限やパソコン不足(30人に対して3台程度)により、「患者のそばで入力・確認する」といった理想的なワークフローの実現にはまだ至っていませんが、入院時には必ず「りんくる登録の有無」を確認する手順が定着しました。他施設との連携フローも整い、医師への問い合わせや報告が記録として残るようになりました。佐渡総合病院からの看護サマリーの共有も始まり、過去データを参照して数ヶ月前の状況を把握できる点は、従来の紙運用にはなかった変化です。

○りんくるを通じて、地域の医療・介護職との距離感に変化はありましたか？

病院看護師は他施設スタッフと顔を合わせる機会が少ないのですが、りんくるでの継続的なやり取りにより「丁寧な情報をくれる人」といった相手への良い印象が生まれています。共通の電子カルテがない島内において、りんくるが共通の連絡手段となり、報告・相談が円滑になったことで、地域全体で患者を支える体制が強化されたと感じています。

○今後りんくるを運用する上で、両津病院としての課題や目標はありますか？

すか？

スタッフの多くは、インターネットや「カタカナ用語」にドギマギしてしまいう人が多く操作自体に抵抗を抱いている実態があります。そこで、「操作に不安があるスタッフを支えるため、サポート係が支援しています。徐々に自立した運用へと移行していきたいと考えています。

○最後に、今後期待することや施設へのメッセージがあればお願いします。

現在は行政系のネットワーク制限により、電子カルテのように患者さんのベッドサイドで入力・確認することができないため、将来的には電子カルテと同じようにモバイル端末で利用でき、かつ看護記録やカンファレンス内容をりんくるに掲載できるようになれば良いと思います。また、両津病院として、将来的には全スタッフが自ら入力し使いこなせるよう進めていきたいと考えています。

最後になりますが、島内他施設のみなさん、多くのスタッフにりんくるを広めていくには時間がかかるかもしれませんが「一緒に頑張りましょう!」。

## LINKLE Q&A



質問：西暦入力が煩雑で、和暦で入力できないのですか？

回答：和暦入力の対応については、現在、ベンダーへの発注は完了しており、近日中の改訂に向けて準備を進めています 反映まで今しばらくお待ちください。

質問：Enter キーで検索できません。

回答：大変申し訳ございません。現時点のシステムでは、Enter キーによる検索実行には対応しておりません。しかし、多くの利用者の皆さまから同様のご要望をいただいております、操作性向上の観点から、今後も対応を検討してまいります。

質問：使い方がよくわからないので、訪問操作レクをしていただけますか？

回答：出前りんくる塾（事業所への訪問レクチャー）は、いつでも受け付けています。お気軽にお申しつけください。

ご希望の日時を事務局までお知らせいただければ、担当者が事業所へ伺います。

また、隔月で「りんくる塾」も開催しています。開催案内は「りんくる」内の「事務局からのお知らせ」やメールでお知らせしますので、ぜひご参加ください（申込不要・参加無料・途中参加可）。

なお、「ちょっとだけ分からない」「ここが不安」といった場合には、いつでもお気軽にお電話ください。

質問：ファイルのアップロード先が限られていて、ほとんどの資料が「その他」フォルダに入っており、どこにあるのかわからない。

回答：ご不便をおかけしており、申し訳ありません。現在、皆さまから寄せられているご要望を整理し、より使いやすいカテゴリフォルダ構成となるよう見直しを進めています。まずは、「薬剤師」専用フォルダを近日中に新設する予定です。そのほかのカテゴリについても、利用状況を踏まえながら、順次検討を進めてまいります。

質問：ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の確認・入力欄は知っていますが、実際にどのタイミングで入力してよいのか迷っています。本人の意向を確認できた時点で入力しても問題ないのでしょうか？

回答：もちろん問題ありません。ACPは、本人の意向を確認できたタイミングで、随時入力・更新していただいても大丈夫です。その後、状況や気持ちが変わることもありますので、必要に応じて見直しや追記を行っていただくことで、より本人の思いに沿った、適切な支援につながります。

工  
事  
中

### 3月までの「りんくる」のアップグレード実施予定

- ・ 薬剤師フォルダの構築
- ・ カンファレンス日程調整機能の追加
- ・ 和暦表示への統一など、利便性の向上
- ・ メール通知設定の個別最適化（担当者のみが届く設定への変更支援）



工事中につき  
大変、ご迷惑を  
おかけしております

## 【特集】感染症情報共有の新しい仕組み、始動しています。

もう皆さまで存じのこととは思いますが、昨年9月から、島内の感染症発生状況を現場にいち早く届けるための新しい取り組みが、「りんくる」でスタートしています。

地域の医療・介護・福祉の現場が、同じ情報を、同じタイミングで受け取れることは、感染症対策においてとても大切です。現場からも「助かっている」という声が少しずつ届き始めています。

「感染症は、“早く知る”ことで防げることがたくさんあります。」そう話してくれたのは、この仕組みづくりの中心となって、ひとつひとつ丁寧に積み重ねて動いてきてくれたのが、佐渡総合病院 ICT の石見さんです。

日々の業務の中で、ぜひ定期的に確認してみてください。



佐渡総合病院  
感染管理認定看護師  
石見 聖士 さん



# LINKLE TIPS

(りんくる活用術)

## “いいね” から始まる、連携の輪 — “いいね” は心をつなぐ魔法の言葉 —

アンケートでは、「連絡を送っても、読んでもらえたかどうか分からない」という声を多くいただきました。これ、実はとても“あるある”ですよね。家族や友達にLINEを送ったのに、なかなか既読がつかないと、「忙しいのかな」「何かあったのかな」と、つい気になってしまふことがあります。

仕事の連絡でも、同じような気持ちになることがあると思います。「ちゃんと届いているかな」「確認してもらえたかな」そんな小さな不安が、積み重なることもあります。

りんくるには既読表示はありませんが、その代わりに“いいね”機能があります。



“いいね”は、

「確認しました」

「読みました」

「受け取りました」

といった気持ちを、短い時間でそっと伝えられる便利な合図になります。

文章で返すほどでもない時でも、“いいね”をひとつ押すだけで、相手は安心できます。

送った側も、「読んでくれたんだな」と分かるので、連携の不安が少し軽くなります。

日々のやり取りの中で、“読んだよ”の代わりに“いいね”を使ってみる そんな小さな工夫が、連携をもっとスムーズにしてくれます。



## Editor's note

### 単語入力でもOK！連絡文を手軽に作るAI活用術

近年、AIは私たちの身近なところで活用が進んでいます。文章作成や調べもの、業務の効率化など、特別な知識がなくても使えるツールとして、多くの場面で役立てられています。医療や介護の現場でも、カルテ入力や記録作成の場面で、AIを活用して内容を文書化する取り組みが広がっています。

こうした流れの中で、日々の連携に欠かせない「連絡文作成」も、AIを取り入れやすい分野の一つです。まずはパソコンやスマートフォンでCopilotまたはGeminiを開き、伝えたい内容を単語や短い言葉で入力します。

例えば、「退院日：2月5日」「訪問看護開始」「家族説明済み」と入力すると、「2月5日に退院予定です。退院後は訪問看護を開始予定で、家族への説明は済んでいます。」

といった連絡文の形に整えてくれます。

作成された文章は、そのまま使うことも、必要に応じて修正することも可能です。文章を考える時間を減らすことで、情報共有をより迅速かつ手軽に行うことができます。

りんくるでの連携を支える工夫の一つとして、AIの活用を取り入れてみてはいかがでしょうか。

システムを導入してくださった利用者の皆様には、心より感謝申し上げます。皆さまの日々の努力と温かい気持ちが、「りんくる」を通してさらに大きく花開くことを願っています。

これからも「りんくる」をどんどん活用して、地域医療介護福祉連携の新しい未来を一緒に創っていきましょう！